

入院中の強度行動障害者支援・介入の専門プログラムの整備と地域移行に資する研究

分担研究報告書

「強度行動障害者への支援・介入に関する家族アンケート調査」

治療プログラムⅠ（3週間）・治療プログラムⅡ（12週間）

主任研究者 會田 千重（国立病院機構 肥前精神医療センター）

研究協力者 西原 礼子（国立病院機構 肥前精神医療センター）

【研究要旨】入院中の強度行動障害者支援・介入の専門プログラム、地域移行プログラムを検討するにあたり、治療効果や研修効果に関する標準化された評価尺度以外に「ご家族アンケート」という質問紙を作成し、更に詳細な分析を行った。

【結果：精神科病棟における「強度行動障害者への入院治療プログラムⅠ」】

治療プログラムⅠ（3週間）は2年間で退院後評価が終了した34事例に関して、回収できたご家族21名と福祉施設支援者（以下支援者）8名の計29名分を集計した。ご家族の主要な介護者はすべて母親であり、ご家族・支援者含め女性が多かった。一方患者の性別は男性が大半（83%）であった。ご家族・支援者の年代は40代が最多で、患者の年代は10代・20代が各々41%であった。自由記載意見では、「ほかに受け入れ先がない場合に助かる」という保護者や、「一つの福祉事業所だけで担える問題ではない」「苦手な時期の回避、支援者のレスパイト、他利用者への支援の充実も図る期間の確保のため、居場所が必要」という施設支援者の切実な意見が見られた。

【結果：精神科病棟における「強度行動障害者への入院治療プログラムⅡ」】

治療プログラムⅡ（12週間）は2年間で退院後評価が終了した12事例に関して、回収できたご家族8名と施設支援者1名の計9名分を集計した。ご家族の主要な介護者はすべて女性で、患者の性別は男性が67%であった。ご家族・支援者の年代は40代が最多、患者の年代は20代が過半数だが幅広い年代を含んでいた。治療期間が長い治療プログラムⅡのほうが、ご家族・支援者の効果への評価、必要性、「また利用したい」という希望が高かった。自由記載は「タイムタイマーが帰ってからでも有効になった」「症状のリセットになった」「健康状態の観察・検査・薬の調整ができた」など具体的な効果をあげたものが多かった。一方で「病院と施設では刺激の量や生活スタイルが異なるので、もう少し情報共有ができればよかった」という意見もあった。

【今後の課題・工夫点】①在宅や施設での生活に困難が生じた際に精神科へ緊急的なレスパイト入院ができること、②入院中、障害特性に応じた環境調整ができるように情報交換や連携の徹底、③地域や施設での支援体制の再構築が入院治療と並行してできること、④在宅の状況を地域のネットワークで把握し家族が孤立しないような仕組みを作ること、等が考えられた。

A. 概要と目的

入院中の強度行動障害者支援・介入の専門プログラム、地域移行プログラムを作成するにあたり、治療効果や研修効果に関する標準化された評価尺度結果は前述したとおりだが、それ以外の評価手法として、「ご家族アンケート」という質問紙を作成し、更に詳細な分析を行ったので報告する。

B. 方法

質問紙によるアンケートを作成し、介入研究を実施した施設で収集した。記載・収集のタイミングは、前述した治療プログラムⅠ・Ⅱのそれぞれのスケジュールに沿って行った。

【ご家族アンケート】

「在宅患者の場合はご家族」「施設入所中の患者の場合は主要な支援者」を対象とし、6項目からなるアンケートを介入後・退院時に記載してもらった。個人名は記載せず、自施設内の分担研究者もしくは研究協力者のみが誰が記載したか判別できるものとした。複数のご家族や施設支援者からのアンケートが集積できた場合は、介護に関して主要なご家族、もしくは主要な施設支援者の結果を集計し、他のご家族や施設支援者については自由記載意見をまとめた。

C. 研究結果：アンケート結果も参照 精神科病棟における「強度行動障害者への 入院治療プログラムⅠ」

治療プログラムⅠ（3週間）は2年間で退院後評価が終了した34事例に関して、回収できたご家族21名と福祉施設支援者（以下支援者）8名の計29名分を集計した。ご

家族21名のうち主要な介護者はすべて母親であり、結果としてご家族・支援者の性別は男性4名（13.8%）・女性25名（86.2%）と圧倒的に女性が多かった。一方患者の性別は男性27名（83%）・女性7名（17%）と男性が大半であった。ご家族・支援者の年代は40代が最多で、患者の年代は10代・20代が各々41%であった。福祉分野の研究協力者との連携を「とても効果的」「効果的」合わせて80%の方が感じており、精神科病棟での「強度行動障害支援・介入」が「とても効果的」「効果的」合わせて72%という結果であった。またその必要性については「必要」とした意見が83%、「まあまあ必要」10%を加えると93%であった。今後の入院治療の利用については「ぜひ利用したい」が69%で、残りの31%も「条件が合えば利用したい」であった。「条件が合えば利用したい」とする自由記載は「介護に無理が来たとき」「良い意味で距離を置くため」「福祉施設でのショートステイと違って、スタッフが対応できなくて迎えに来てほしいと言われないから」「施設に強度行動障害の利用者が数名いるため、適宜病院と協力したい」「状況に応じて薬物調整できれば」「本人のコンディションや環境を考慮し必要な時」などであった。その他の自由記載意見では、「ほかに受け入れ先がない場合に助かる」「連休や年末年始など親が仕事もある一方で、福祉サービスが利用できない」という保護者や、「一つの福祉事業所だけで担える問題ではない」「苦手な時期の回避、支援者のレスパイト、他利用者への支援の充実も図る期間の確保のため、居場所が必要」という施設支援者の切実な意見が見られた。

精神科病棟における「強度行動障害者への入院治療プログラムⅡ」

治療プログラムⅡ（12週間）は2年間で退院後評価が終了した12事例に関して、回収できたご家族8名と施設支援者1名の計9名分を集計した。ご家族8名のうち主要な介護者は母親が7名、きょうだいが1名で、すべて女性であった。患者の性別は男性6名（67%）・女性3名（33%）であった。ご家族・支援者の年代は40代が最多で、患者の年代は20代が56%、その他の年代が1名ずつと、治療プログラムⅠより高齢の方も含んでいた。福祉分野の研究協力者との連携を「とても効果的」「効果的」合わせて100%の方が感じており、精神科病棟での「強度行動障害支援・介入」も「とても効果的」「効果的」合わせて100%と、治療期間が長い治療プログラムⅡのほうがご家族・支援者の評価は高いという結果であった。またその必要性について無回答の1人以外は「必要」とし、今後の入院治療の利用についても「ぜひ利用したい」が7名（78%）で、これらも治療プログラムⅡのほうが高かった。自由記載は「タイムタイマーが帰ってからも有効になった」「症状のリセットになった」「健康状態の観察・検査・薬の調整ができた」など具体的な効果をあげているものが多かった。一方で「病院と施設では、刺激の量や生活スタイルが異なってくるので、もう少し情報共有ができれば病院側も施設側もよかった」という意見もあった

D. 考察・E まとめ

入院中の強度行動障害者の支援・介入に関して、標準化された評価尺度のみでなく、質問紙によるアンケート調査を実施したこ

とで、多数のご家族・福祉施設支援者の具体的な意見や、実施上の課題などがより詳細に集積できた。

自由記載意見からの今後の課題・工夫点としては、①在宅や施設での生活に困難が生じた際に精神科へ緊急的なレスパイト入院ができること、②入院中、障害特性に応じた環境調整ができるように情報交換や連携の徹底、③地域や施設での支援体制の再構築が入院治療と並行してできること、④特に在宅の状況を地域のネットワークで把握し家族が孤立しないような仕組みを作ること、等が考えられた。

F. 健康危険情報：なし

G. 研究発表

1. 論文発表：なし
2. 学会発表：

會田千重 市川宏伸 井上雅彦 日詰正文
成田秀幸 根本昌彦 高橋和俊 山下健
吉川徹 児玉匡史 田中恭子：強度行動障害者への

入院治療プログラムを用いた多施設介入研究 第64回日本児童青年精神医学会総会Eポスター

2023. 11. 14 青森

會田千重 市川宏伸 井上雅彦 日詰正文
成田秀幸 根本昌彦 高橋和俊 山下健
吉川徹 児玉匡史 田中恭子：入院中の強度行動障害者への支援・介入の専門プログラム整備と地域移行についての多施設共同研究 日本精神神経学会学術総会
2024. 6. 20 北海道

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得：なし
2. 実用新案登録：なし
3. その他：なし

I. 謝辞

今回のアンケート調査にご協力いただいた、愛知県医療療育総合センター中央病院・岡山県精神科医療センター・国立病院機構菊池病院・千曲荘病院・国立病院機構榊原病院・京都府立洛南病院・国立病院機構やまと精神医療センター・松ヶ丘病院・国立病院機構賀茂精神医療センター・国立病院機構肥前精神医療センターの患者さんご家族と福祉支援者の皆さまに深謝の意を表します。

参考文献

- 1) 強度行動障害のある人の「暮らし」を支える 福島 龍三郎 肥後 祥治 牛谷 正人編集 會田千重 第10章 医療機関との連携 中央法規 2020
- 2) 多職種チームで行う 強度行動障害のある人への医療的アプローチ 會田千重編集 中央法規 2020

【入院中の強度行動障害者への支援・介入の専門プログラムの整備と地域移行に資する研究】

治療プログラムⅠ ご家族アンケート集計

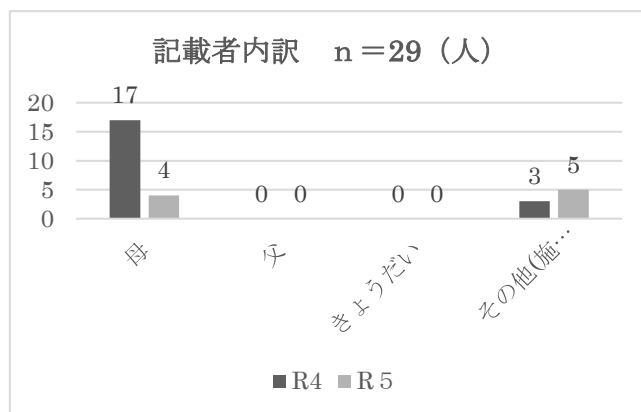
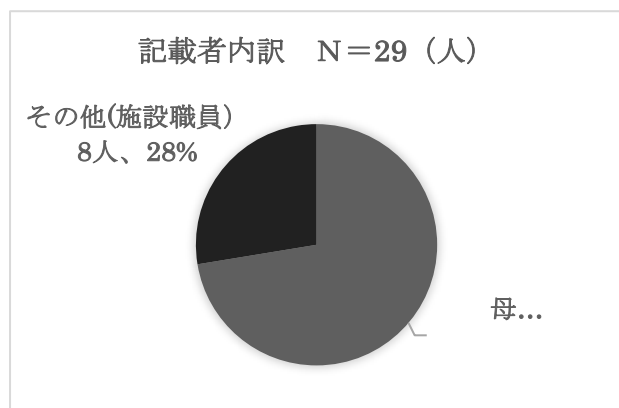
*アンケート総数 34名（令和4年度；21名、令和5年度；13名）

回収・有効回答数 29名（令和4年度；20名 令和5年度；9名） 回収率 85%

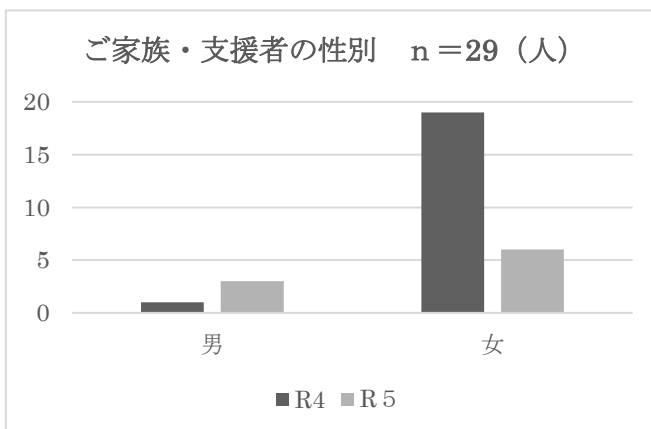
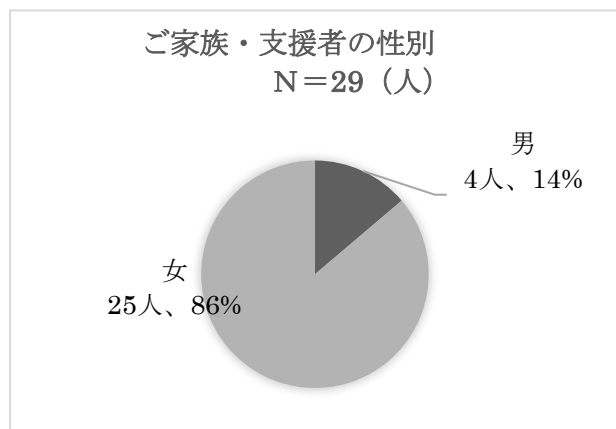
左グラフ:R4・R5 総計 右グラフ:R4・R5 比較

1, 基礎情報

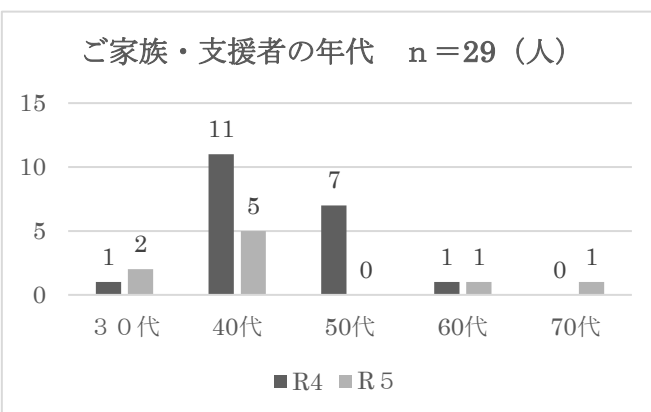
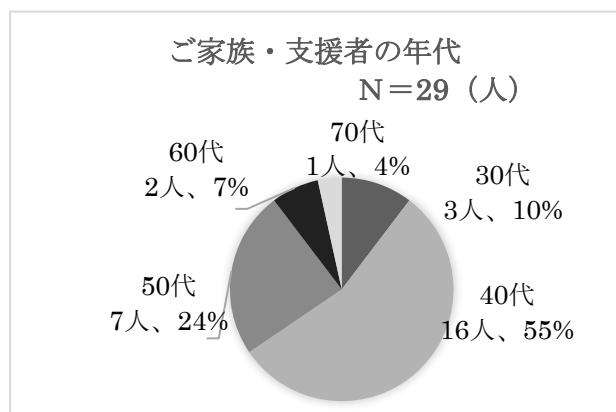
1) 記載者内訳



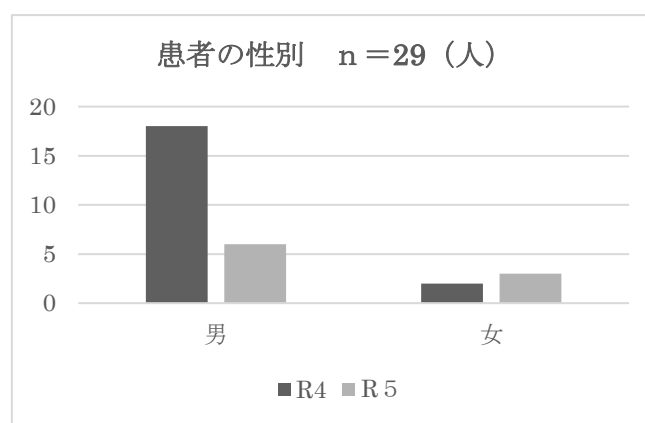
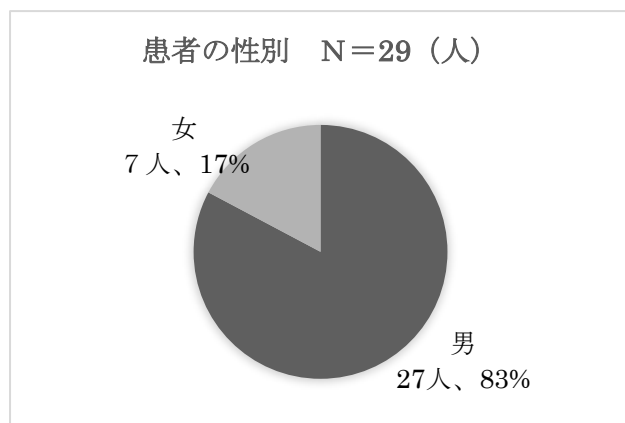
2) ご家族・支援者の性別



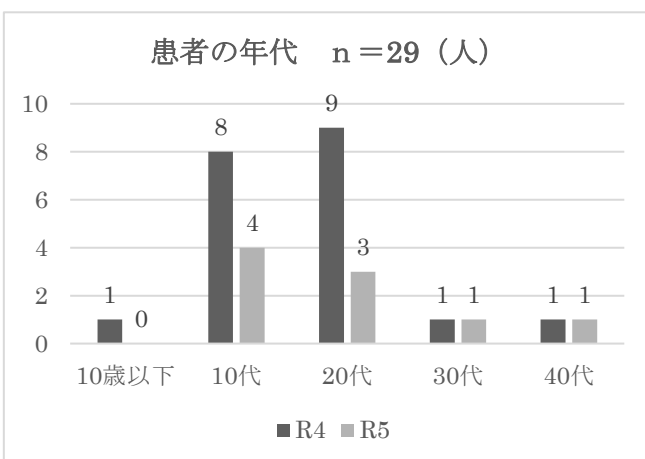
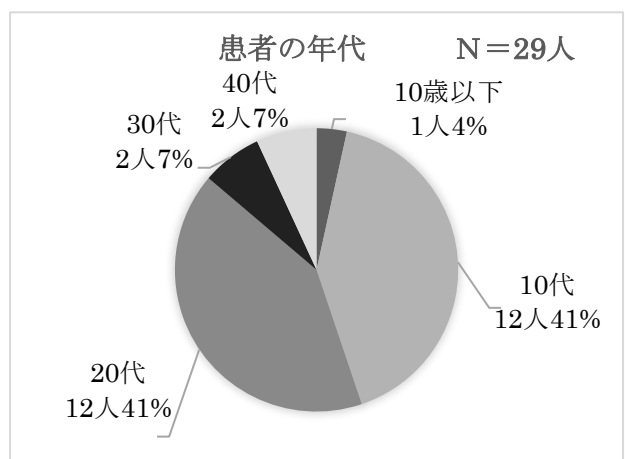
3) ご家族・支援者の年代



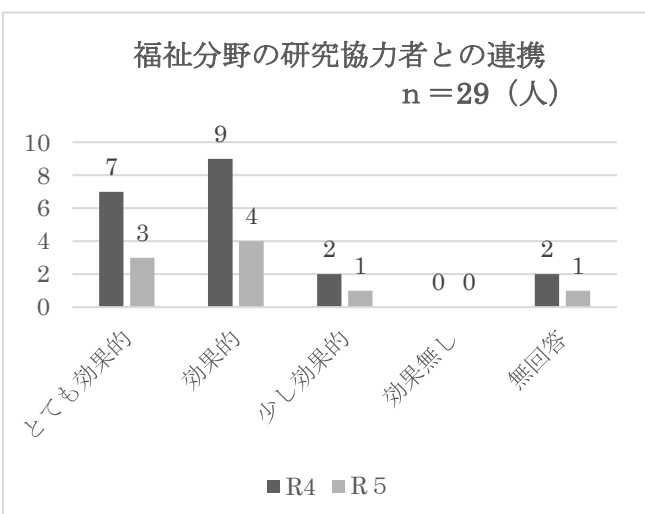
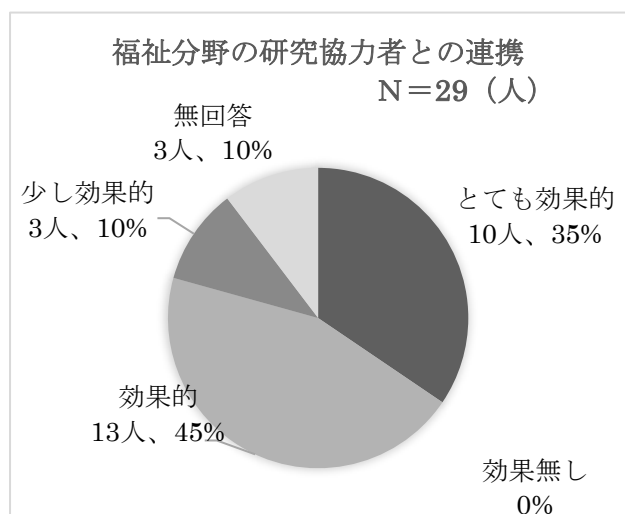
4) 患者の性別



5) 患者の年代



2. 入院において、福祉分野の協力者との連携はいかがでしたか？



【令和4年度自由記載】

1) とても効果的

- ・自分の時間が持て、話し合いに時間をかけることができる。
- ・家庭外での生活の様子、他者とのかかわりでのストレスやその支援方法を具体的に報告・助言してくださることで本人が大きく戸惑うことなく入院できた。
- ・連携が取れているなあと感じた、卒業後も相談できる場所があって嬉しかった。
- ・入院主治医、福祉、訪問看護で連携し、退院後の支援を構築してくれた、さらに、福祉からの紹介で行動障害に詳しいグループホームへの入所が実現した。
- ・いろんな話ができてよかった。

2) 効果的

- ・施設での患者の様子を聞き、対応の仕方等アドバイスできる。
- ・学校やレスパイトとのやり取りが多くなり、気にかけてくれる方も多くなりありがたい。
- ・担当の相談支援員さんが強度行動障害児に対応している入院施設を探してくださったり入院さきとの入院日の調整や相談をしていただいた。
- ・18歳を過ぎてからでも理由次第で医療型の施設に入所することも可能だということを聞いて少し安心した。
- ・支援者会議の実施で「病院」「施設」「自宅」各々での状況や支援方法などの情報共有が図れた。
- ・いろいろ助けていただいた。
- ・入院中に薬の調整をしていただき、退院後は少し変化したように感じる。

3) 少し効果的

- ・入院により地域支援者に定期的に休んでもらい、地域生活の継続を目的としているが、入院を理由にヘルパー事業所の利用を打ち切れそうになり福祉分野の協力者の連携不足を感じた為。
- ・障害があつてパニックになることがあり、家族としては家での生活は困難を感じているが、通所サービス、ショートステイの利用先が無く、退院後、家にいることが多い生活となり本人も家族もストレスを感じている。

【令和5年度自由記載】

1) とても効果的

- ・定期的に専門職の見立てを教えていただけた。病院でも担当学会を開催していただき今後の支援のアイデアも共有し合えたと思う。
- ・入所施設側、家族側、それぞれの願いを聞いて下さり、提案や安心感を提供していただき有難かったです。
- ・連携の為の会議の実施。
- ・入院中の情報やその後の情報の共有はしっかりできたと思う。
- ・入院してからいろいろと支援が広がりつつあり、学校での対応もよくなっている。

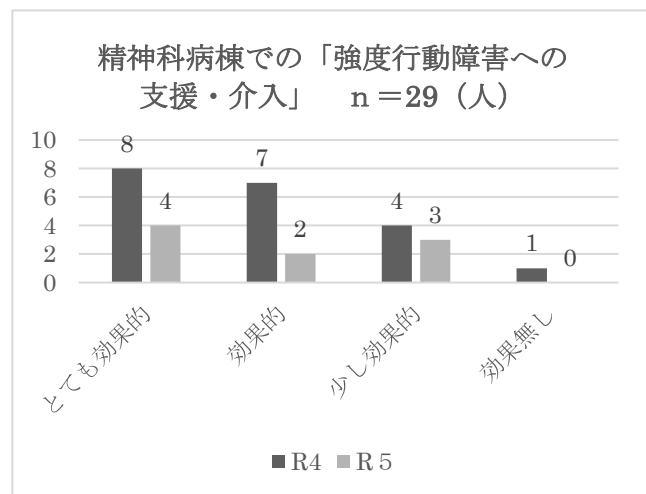
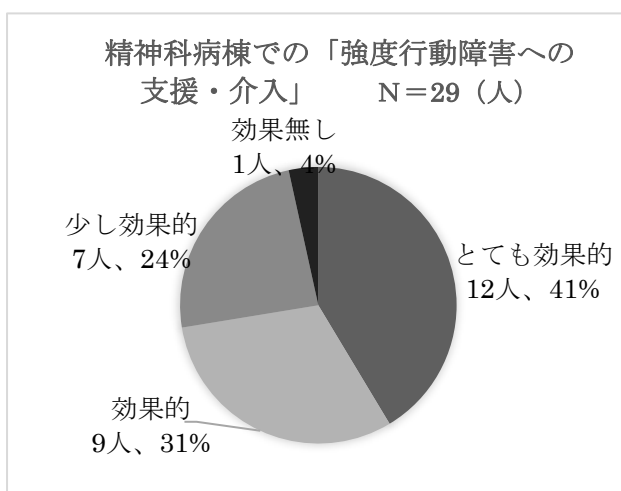
2) 効果的

- ・ 施設での患者の様子を開き、対応の仕方等アドバイスできる。
- ・ こちらの立場も考えて協力助言をして下さる。
- ・ 毎日福祉サービスを利用している方なので、情報共有は大切だと思います。
- ・ OTの方が本人にとって有効な事を考えてくださった。
- ・ 入院時、退院時の情報共有は行えていたと思う。入院時にお尋ねが数回あったため、事前にどのような情報があるのかお互いに整理しておくべきと思った。
- ・ 施設が基本的な病院とのやり取り、入院中の対応は引き受けていた。ご家族の対応が必要なものについては施設からお願いをして、家族の負担をなるべく減らせるように努めた。

3) 少し効果的

- ・ 入院中に一つの福祉施設の見学ができた。
- ・ ケア会議に出席して入院中の様子を聞くことができたが、1日20分(週3日)の作業療法で関わっていただけたのはわかったが、その他の時間、落ち着いて過ごせていたと聞くが、目新しいことは聞けなかった。

3. 精神科病棟での「強度行動障害への支援・介入」(入院治療)はいかがでしたか？



【令和4年度自由記載】

1) とても効果的

- ・ 障害の特性上、変えることが難しい、こだわりや生活動作などの日常を入院治療に取り入れることで本人が不安を感じることなく入院生活を送ることができました。
- ・ 学校の長期休みの入院は、本人も静かな環境で過ごせるのでとても効果的。
- ・ 入院は、とても不安だったが、どんなことをしても動じることなく受け入れてくれてここなら大丈夫だと思えるようになった。
- ・ 本人が納得できる環境を指示していただいた。

- ・他害がひどく、自室の壁を壊したり、介助者にけがをさせたり、自宅での生活が困難になってきていたので、一時的に保護してもらえたのは負担軽減になり大変ありがたかった。
- 今後の関わり方について専門職の方の助言を頂くことができたのは良かった。
- ・自宅では母と1対1なのでクールダウンができないが、病院ではとても落ち着くし煮詰まっても解消できるので暴力が減った。

3) 効果的

- ・福祉施設でのショートステイ等を受け入れてもらえない場合は助かる。
- ・刺激の少ない環境で本人が落ち着きを取り戻した様子がかがえたため入院中も入院後も暴れなくなった。
- ・期間が短かったので何とも言えない、もう少し長かったらいいのかと思った。
- ・レスパイトの3週間ではあったが、病院と連携が取れてよかった。
- ・息子はいわゆる「刺激」に弱いと言われ、自宅では毎日のようにパニック、他害、器物破損などがある、入院中はそれをふまえて過ごしやすい「環境」（こだわりやすい物や行動が出やすい物のない）を作って頂き、毎回の入院時は落ち着いて生活できているようなので効果的と言える。

3) 少し効果的

- ・入院後少し落ち着いた気がする。
- ・リセットするには良い機会だった、オムツ生活が無くなったことがとても良かった。
- ・居室に入って日課をこなすことができるようになった、表情が良くなった。
- ・16日間では期間が短すぎてよくわからないが、刺激の少ない部屋で過ごせることは子どもにとって必要なことだと思う、ただ、自傷は以前より増えていてひどくなっているということが気になった。

4) 効果無し

- ・入院前と変わらず、苦手な音や苦手なものに対してパニックになり暴れてしまう。

【令和5年度自由記載】

1) とても効果的

- ・初めての入院生活をわかりやすく提示していただいて、混乱も少なく過ごせていたようで、家から離れて適切な生活、気持ちの切り替えに突入できて良かったです。
- ・入院治療について、連絡等で説明を頂いた。
- ・施設での高ストレス状態からの解放に加え、病棟での本人の生活リズムを整えることができた。
- ・いろいろなこだわりのリセットが出来るので支援しやすくなる。

2) 効果的

- ・福祉施設でのショートステイ等を受け入れてもらえない場合は助かる。
- ・服薬調整や健康管理など、在宅では難しい方へ支援して下さっていると感じています。
- ・当初は1ヵ月ということだったが、延長してもらうことになった。深掘りして判断してもらえたこ

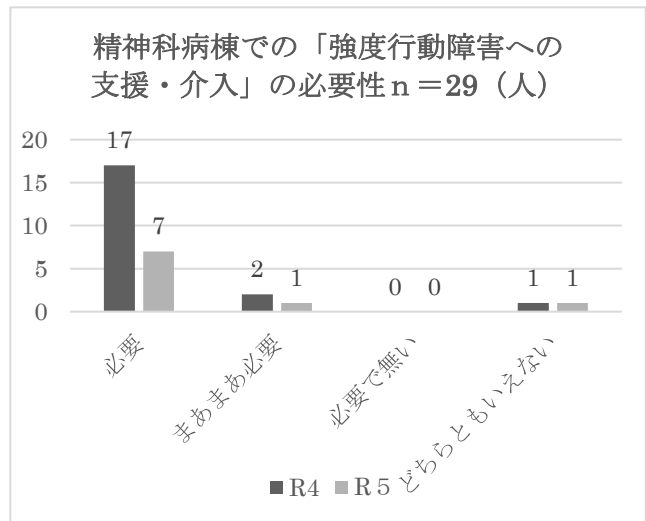
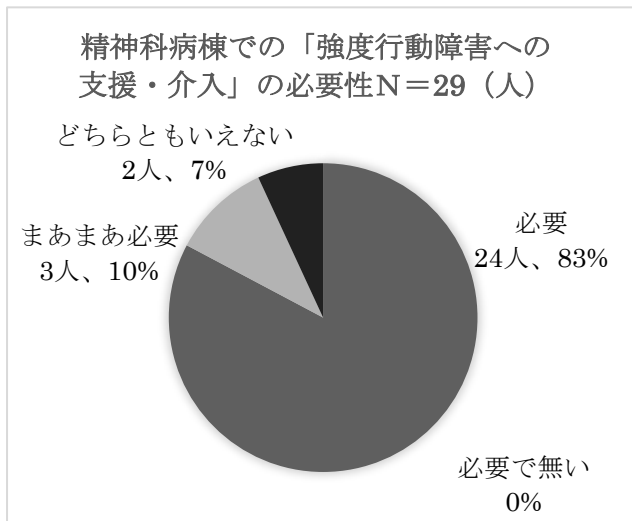
とで安心感につながった。

- ・ 入院の条件が保護室で学園（施設）の環境とは離れすぎていたのが不安だったと思う以上の効果があったと思います。

3) 少し効果的

- ・ 本人の障害も複雑で重たいのでなかなかすぐに効果がある支援、介入が見つからないのが現状ですが、それぞれの分野からの視点でいろいろ？えてくださいました。
- ・ 施設の困り感は集団での対応ですが、入院先では個別対応の部分で、若干見立てがズレやすい部分があります。
- ・ 作業療法士のリハビリがよかったと思います。
- ・ “・これまでの食欲が、なにがなんでも食べたい、飲みたいという毎日でパニックも多かったが、目にしない限りは食べることは減っている。段々思い出して、弟のおかずを取ったりすることはある。
- ・ 作業所に着いたら、すぐ車から降りて中に入れているので、これまで 20 分～1 時間車から降りないので眠ったりしていたので、すごい変化を感じて有難い。日常を離れたことが良かった。

4. 精神科病棟での「強度行動障害への支援・介入」（入院治療）は必要だと思いますか？



【令和4年度自由記載】

1) 必要

- ・ 状況に応じて薬の調整ができるのかな・・・と思う。
福祉施設でショートステイの受け入れをしてもらったとしても、施設スタッフが対応できなくなったときに迎えに行かないといけなくなるという不安が（入院治療）ではない。
- ・ 本人も含め他の人にも危険（ケガなど）なめに合う可能性があるため安全に生活するため。
- ・ 外科・内科の病気と違い、安静がメインではないので日常動作を行う中で視覚的支援や構造化は必要不可欠だと思う。
- ・ 福祉型障害児入所施設では、強度行動障害の行動療法は難しい。
- ・ 刺激をなくし生活をしていくことで本人が落ち着いて過ごせると思った。また、離れてみることで改めて感じたこともあった。

- ・本人はもちろん、家族も大変助かっている。
- ・専門スタッフによる対応が保証されているので、入院期間中、本人・家族が互いに安心して過ごせる
- ・本人が入院したくないと感じ、暴れてはいけいないと意識を持てたので緊急時の対応など考えると必要
- ・強度（行動障害）になってくると必要だと思う。
- ・本人の気持ちを全てわかってあげることが難しいことがあるので調子が崩れる時に、クールダウンできるように退院後はまた仲良くできる時間が持てるようになるため必要。
- ・自傷、他害更衣や不潔行為などにより、自宅や福祉型入所施設での生活が困難な場合も多く、家族の負担が強い。また、問題行動がひどい時は薬物コントロールについても相談したい。入院は、家族として大変安心できる。
- ・強度行動障害を持つ人が近辺にいないということもあり、知識不足なうえに扱い方もあやふやで不安だらけ、もっともっと色々な病院や施設などで支援・介入を進めて欲しい。
- ・本人の自傷や家族に対する他害などに対する緊急避難的保護として、本人の「リセット」としての意味合い、本人の健康状態の観察、検査、薬の調整などのため施設や家族だけではどうにもならないこともあったので。

2) まあまあ必要

- ・退院3日目くらいから大声が見られた、入院前と違う声のあげ方になっている。
- ・他児への粗暴が無くなっていたが、退院後から激しくなった。
- ・家族にも理解していただいた入院、施設では取り組めないところは、病棟では医師にすぐ相談できる環境は良いと思う。

4) どちらともいえない

- ・いろいろな角度からの支援は必要だと思うが、今回ほとんど病棟から出れてなくてお風呂に入れてなかった、コロナで面会ができなかったので不安が多かった。

【令和5年度自由記載】

1) 必要

- ・状況に応じて薬の調整ができるのかな・・・と思う。福祉施設でショートステイを受け入れをしてもらったとしても、施設スタッフが対応できなくなった時に迎えに行かないといけなくなるという不安が（入院治療でも）ない。
- ・これからGHでの受け入れが望まれることもあるかと思います。しかし強度行動障害の専門的・特化したGHが必要だと思います。（施設も必要）
- ・在宅では限界がくる事例もあるかと思います。そのときに医療のサポートがあることはありがたい。
- ・通院だけではご本人に適した暮らしや内服等を探るのは難しいように思う。一度入院して24hの暮らしを見ていただいたうえでの判断のために入院治療は必要だと思う。
- ・施設は”生活の場”、病院は”治療の場”といった側面があり、相互の協力と介入が大切
- ・施設内で破壊行為や自傷、他害が続き切り替えが難しい際のクールダウン機能として必要。また食事が摂取できない時などは安心できる場となり得ます。

- ・ 入院者者 2 人の中には、強行の方、多いのではないかと推測されます。入所施設の職員として見立てやアドバイスを是非参考にさせていただきたいです。
- ・ 強く暴れたりして物を壊したり、困らせたりして、願いをかなえてきてたので、それが通用しない環境、見守りをさせていただく事は必要だと思います。
- ・ レスパイトの役割や、習慣行動の一時的リセット、ご本人の見立ての整理をするのであれば、関わる機関が多い程良いと感じます。
- ・ 同じ場所で支援を行った結果、行動障害がひどくなった場合に支援の確認や支援員の疲弊等のケアが必要なので、病院の介入はかなり助けになります。
- ・ 施設では集団生活となるため、長期休暇中はご本人にもストレスがかかるであろうと思われるため、必要だと思う。
- ・ 上記の通りで、施設ではどうしても高刺激になってしまうことがある。本人の安心や、生活リズムを整えるためにも、低刺激ですごせる病棟での入院は必要だと感じています。
- ・ 気持ちの安定と生活リズムの改善が出来る。

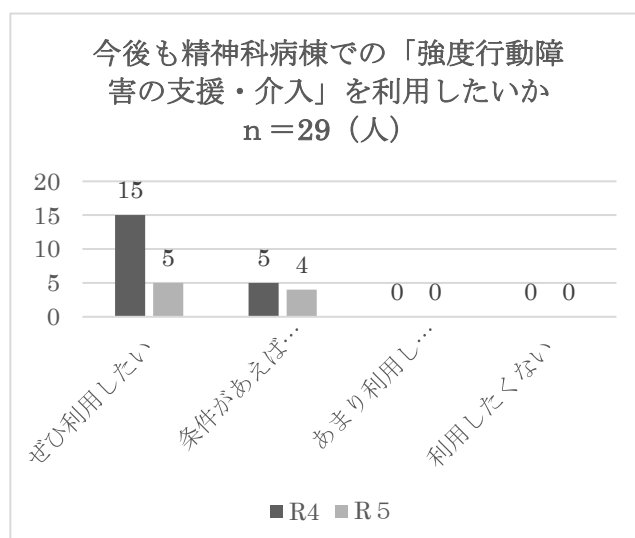
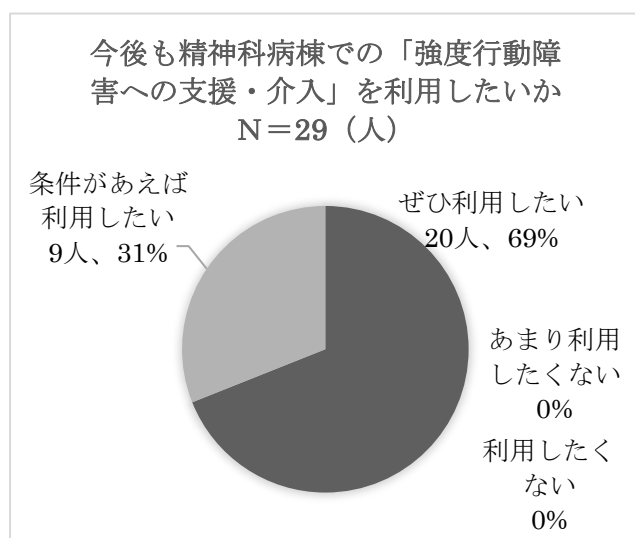
2) まあまあ必要

- ・ 病院内の規則に従って生活するので本人のために良い

4) どちらともいえない

- ・ 療育病棟は空きがなく、家での生活はコロナ禍の 3 年半、限界を感じていたので、入院ができると知った時はとても有難かった。何か取り組んでいただける入院かと思ったが、初日から大変な騒動を起こし、入院中どうしているのか心配ではあった。いろいろ配慮の必要な障害者には障害特性をよく知ったキーマンが必要だと思う。

5. 今後も精神科病棟での「強度行動障害への支援・介入」（入院治療）を利用したいと思いますか？



【令和4年度自由記載】

1) ぜひ利用したい

- ・ 家族だけでは限界があり、精神的に弱ってしまうので・・・
- ・ 家庭と病院と福祉事業所と連携を取り今後も適時の入院を希望したい。
- ・ 家族の休憩になってとてもありがたかった、家族とコミュニケーションが取れた。
- ・ 本人が落ち着いて生活（周りの人も）するためにもぜひ利用したい。
- ・ 地域生活を継続するにあたり、家庭環境・支援内容の見直しが必要。その時間を確保するために医療的ケアを要する強度行動障害の精神病棟での入院治療は有効性が高いと感じる。
- ・ もしも物損ではなく傷害事件になってしまったら、お互いに良い生活を送ることができなくなる
- ・ GHにおいても今後将来的に必要である。
- ・ 何か起こる前に、調子が悪くなりすぎないように、うまく利用したい。
- ・ 自宅での生活は負担が大きく、限界に思うこともある、また、強度行動障害について理解を深め関わっていきたいと思っている、自宅での生活が困難になってきたときは、入院したり、専門職の方と相談できる場があるとありがたい。
- ・ 自傷・他害・服破り・器物破損などの行為が少なくなる限りは、今後も引き続き利用したいと思う、行動が、何か理由があつての事か、どうしようもないのか疑問だらけ。
- ・ こだわり行動や行動障害のリセットとして、また家族や施設スタッフのレスパイトとして利用できるとうありがたい。

2) 条件があれば利用したい

- ・ 状況に応じて薬の調整ができるのかな・・・と思う。
福祉施設でショートステイの受け入れをしてもらったとしても、施設スタッフが対応できなくなったときに迎えに行かないといけなくなるという不安が（入院治療）ではない。
- ・ 介護に無理が来たら必要になってくる。
- ・ 良い意味で距離を置くことは必要だと思った。
- ・ 高3で次の行き先が決まっていない、宿泊での実習もなかなか難しい状況で大声、粗暴少なくなり（できればなくなってほしい）移行先が決まってほしい。
- ・ 障がい者施設に数人強度行動障害の利用者が該当するため、病院と協力していきたい。

【令和5年度自由記載】

1) ぜひ利用したい

- ・ 他の利用者の方に対しての危険もあり職員の危険も否めない。主治医、病院と連携をとり、その方々のサポートが必要と思われるから。
- ・ レスパイトの意味合いでも利用したいと思う。
- ・ 本児の苦手な時期の回避、支援者のレスパイト、他児への支援を充実させる期間の確保の為の本児の居場所の必要性を強く感じます。
- ・ 重い障害がある方程、他施設での連携が必要と考えられます。
- ・ 入所施設で不穏になったり、外泊で家で困った時、力になっていただきたいです。

- ・ 手立ての引き出しは増えると思います。1 事業所だけで担える問題ではないと感じています。
- ・ 上記のようなタイミングでの利用ができたらありがたい。
- ・ 連休や年末年始など私たちが仕事もあるため、福祉サービスを受けられないため。

2) 条件があれば利用したい

- ・ 状況に応じて薬の調整ができるのかな・・・と思う。福祉施設でショートステイを受け入れをしてもらったとしても、施設スタッフが対応できなくなった時に迎えに行かないといけなくなるという不安が（入院治療でも）ない。
- ・ 本人のコンディション（体調含め）や環境を考慮し、必要であれば利用してほしいと思います。
- ・ 同じ場所で支援を行った結果、行動障害がひどくなった場合に支援の確認や支援員の疲弊等のケアが必要なので、病院の介入はかなり助けになります。
- ・ ご本人の状況や状態をみながら相談し、利用したい。
- ・ 毎日家に居るので環境が変わっていいのではと思います。
- ・ 他に受け入れ先がない時、器があると思うことで親は助かります。今回、退院予定日の一日前にケガをしたので、入院が 2 週間延期になった。本人がどの位安定したかは、このケガの為、本人の乱れに繋がったかもしれない。入院中、なんとか過ごせたようですし、退院して帰ってから多少落ち着きはあるので良かった。親は食事制限や気配りもこれまで以上に期待され、ストレスも感じている。

6. ご要望・ご尾希望・困りごとがございましたら自由にお書きください

【令和 4 年度自由記載】

- ・ 本人が入院しているときに、介護する私（母）がゆっくり食事に出れた。
- ・ 常時、支援を受けながらの生活ではあるが、他者との関わりや回避が難しい、環境刺激などで本人のストレスから問題行動に繋がってしまう、本人のみならず周りの方々のストレスも深刻となり悪循環となっている現状がある。低刺激の入院生活で心身を休ませ、安心安全な場所と本人の中で位置づけられたらと願っている。
- ・ 入院中の様子がどうなのか知りたい、どのように調整しておられるのか等逆に困っておられることはないか？
- ・ 現在は、私（母）が健康で一緒に生活することができるが、私（母）が病気や高齢になった時を思うと心配でならない。今現在、本人は行き場がなく家にいることがほとんどになっている。1 人でいる時に暴れて壁に穴を開けたりするのではないかと仕事をしている間も心配でならない。安心した生活を送りたい。
- ・ 将来にわたって、安心してこのような支援や治療を受け続けたい。
- ・ 今後も入院を希望したい、嘔吐が良くあるので改善できることがあれば教えてほしい。良くしてもらってありがとうございます。
- ・ 薬を嫌がって飲もうとしなかったりするの困る、なかなか痔が治らない。仕事をセーブしなくてはなくなる不安がある（おじいちゃんの家で暴れる事が多いと預けるのも心配になる）。

- ・最近、一日に数回かんしゃくがあるが、力が強くなっているのを日々感じ、対応に苦慮しつらいと思うことが多くなってきた、また、最近反芻が頻繁にあり、時に床一面吐物で汚れるくらい吐いてしまうことがあり、片づけて吐くの繰り返しで、心が折れてしまうことがありつらい。またご相談にのっていただけるとありがたいです。今後ともよろしく願いいたします。
- ・医療機関・福祉機関に対しては、自閉症の特性を踏まえたコミュニケーション支援と配慮の充実。より一層の病院と福祉分野の連携を希望。困りごととしては、退院後すぐに元の状態に戻る「ギャップ」が毎回必ずあること。
- ・他にももっとあるといいと思った（病院や施設が？）。

【令和5年度自由記載】

- ・他の利用者の方に対しての危険もあり職員の危険も否めない。主治医、病院と連携をとり、その方々のサポートが必要と思われるから。
- ・本児の苦手な時期の回避、支援者のレスパイト、他児への支援を充実させる期間の確保の為の本児の居場所の必要性を強く感じます。
- ・重い障害がある方、他施設での連携が必要と考えられます。
- ・入所施設で不穏になったり、外泊で家で困った時、力になっていただきたいです。
- ・手立ての引き出しは増えると思います。1事業所だけで担える問題ではないと感じています。
- ・連休や年末年始など私たちが仕事もあるため、福祉サービスを受けられないため。
- ・他に受け入れ先がない時、器があると思うことで親は助かります。今回、退院予定日の一日前にケガをしたので、入院が2週間延期になった。本人がどの位安定したかは、このケガの為、本人の乱れに繋がったかもしれない。入院中、なんとか過ごせたようですし、退院して帰ってから多少落ち着きはあるので良かった。親は食事制限や心配りもこれまで以上に期待され、ストレスも感じている。

【入院中の強度行動障害者への支援・介入の専門プログラムの整備と地域移行に資する研究】

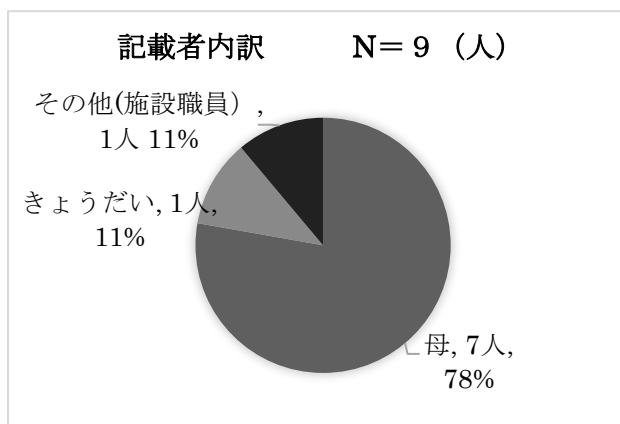
治療プログラムⅡ ご家族アンケート集計

*アンケート総数 12名 回収・有効回答数 9名

回収率 75%

1, 基礎情報

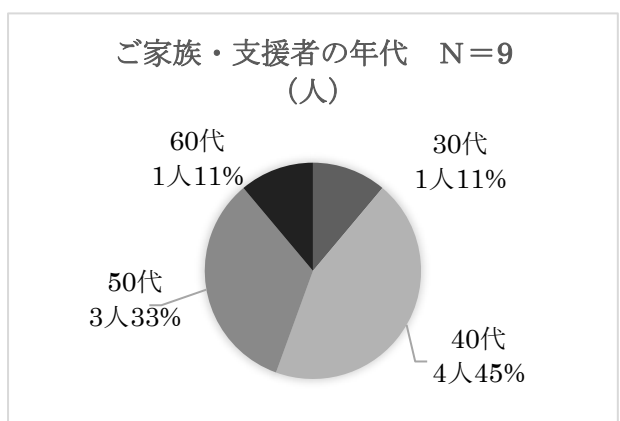
1) 記載者内訳



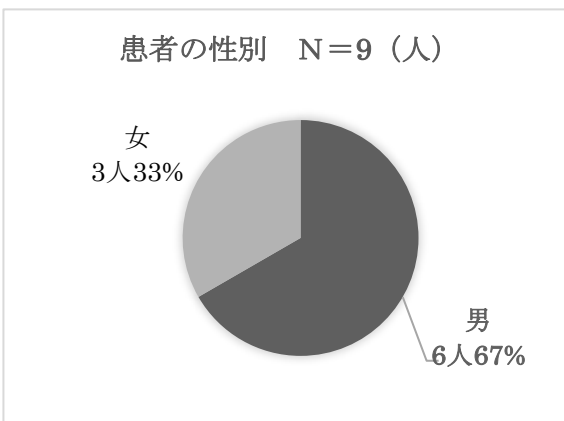
2) ご家族・支援者の性別



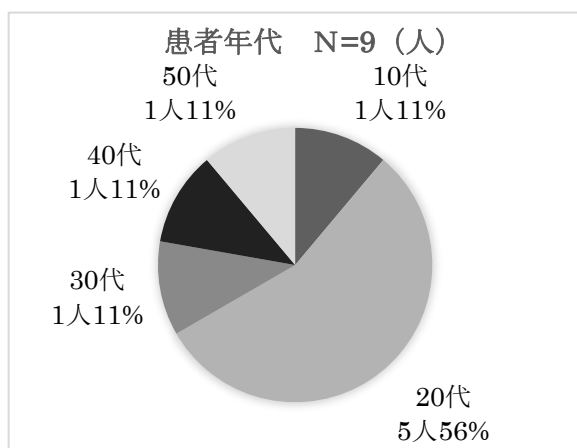
3) ご家族・支援者の年代



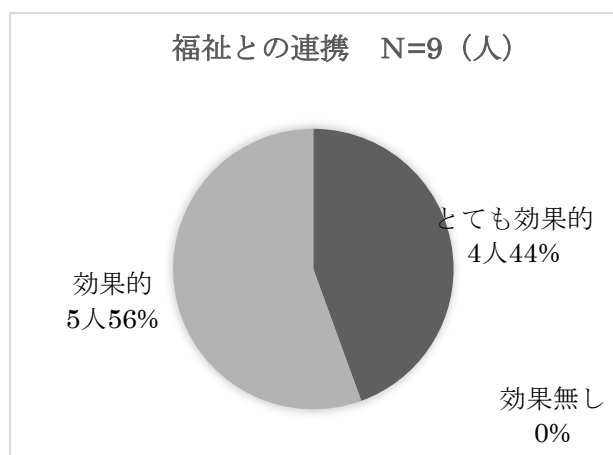
4) 患者の性別



5) 患者の年代



2. 入院において、福祉分野の協力者との連携はいかがでしたか？



【自由記載】

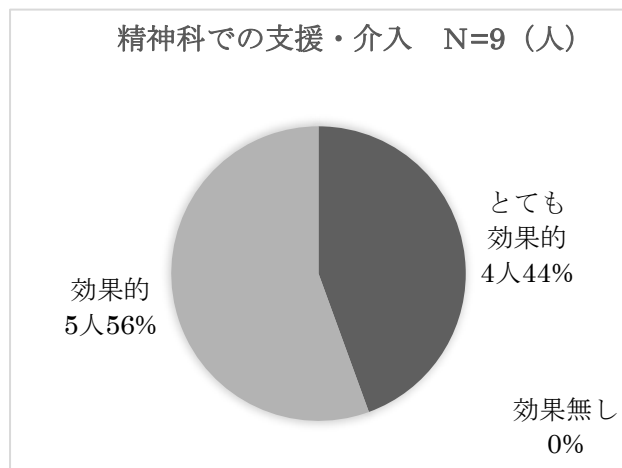
1) とても効果的

- ・ 積極的にはたらきかけてくれるようになった。それまで止まっていた支援が動いた気がします。
- ・ 医師、PSW、Ns、OT の方からたくさんの助言を頂くことができて良かったです。また会議の調整なども迅速に対応していただけたので、ありがたかったです。
- ・ 支援方法の共有ができた。
- ・ 何かあれば直ぐに連絡を下さり助かりました。

2) 効果的

- ・ 支援者会議の実施で「病院」「施設」「自宅」各々での状況や支援方法等の情報共有がとれた。
- ・ 情報の共有がしっかりと出来（支援会議など）こまめに集まって様子や今後どうしていくかをよく話あえた
- ・ いろいろ助けていただいたから。
- ・ 病院での本人へ関わりを持ていただけた皆様、施設の支援をして下さる皆様いろいろな方向よりみていただけて新しい気づきなど知る事ができありがとうございました。
- ・ 病院との橋渡しをしてくれた。

3. 精神科病棟での「強度行動障害への支援・介入」(入院治療)はいかがでしたか？



【自由記載】

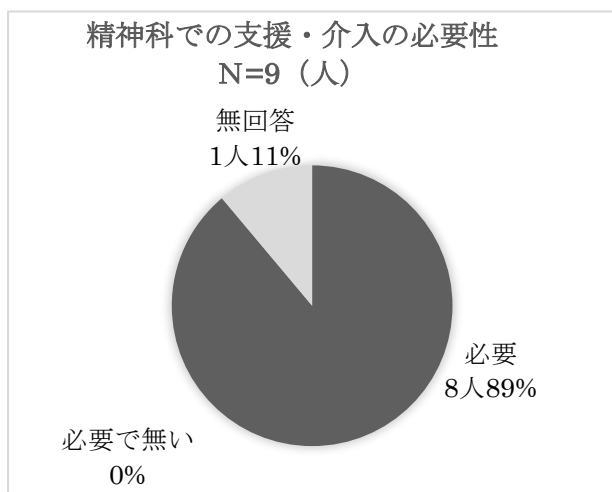
1)とても効果的

- ・ 本人の施設入所に向けての訓練、家族、介護者への気持ちを支えていただいたことはありがたいことでした。
- ・ 有効な支援方法を常に考え実施してくれた。
- ・ 先生、担当の看護師さん、OTの皆様が本当に親身になって下さり、入院した当初とは見違える程、良くなりました。
- ・ 暴力が減ったから。

2)効果的

- ・ 息子はいわゆる「刺激」に弱いと思われ、自宅では毎日の様にパニック、他害、物品破損等がある。入院中はそれをふまえての「過ごしやすい環境」(こだわりやすい物や行動が出やすい物のない)を作って頂き、毎回の入院時は落ち着いて生活できている様なので効果的だといえる。
- ・ タイムタイマーが帰ってからでも有効になった。ドライブのこだわりがなくなっておう吐もなくなった。薬の調整などもしっかりやってもらいありがたかった。落ち着いて過ごせている。
- ・ 病院と施設とでは、刺激の量や生活スタイルが異なってくるので、もう少し情報共有ができれば、病院側も施設側も良かったのかなと感じました。
- ・ お世話になりありがとうございました。生活面でのリセットと言いますか日々の生活を知らない方の介入で心配でしたが取り組みや対応、今となり良かったのではと思っています。
- ・ 暴力が減った、笑顔が増えた

4. 精神科病棟での「強度行動障害への支援・介入」(入院治療)は必要だと思いますか？



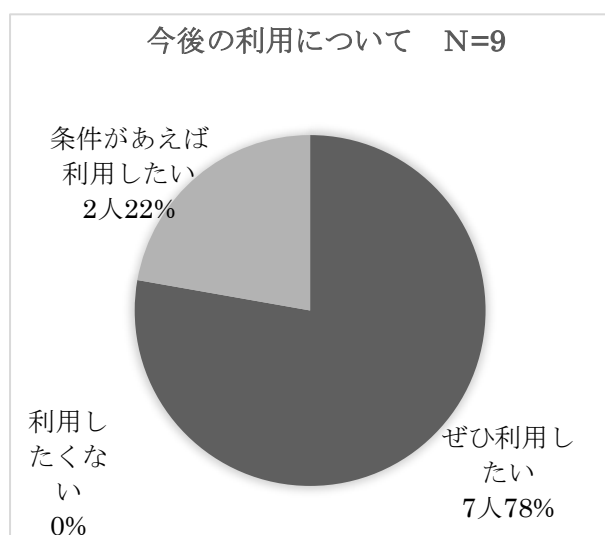
【自由記載】

1) 必要

- ・ 本人や家族に対する他害や自傷等に対する緊急避難的保護として。
- ・ 本人の「リセット」としての意味合い。
- ・ 本人の健康状態の観察、検査、薬の調整等。”

- ・ リセットするには入院が一番有効だと思う。
- ・ 過ごす場所、適切に支援して下さる方々、薬の投与等、環境が整っていれば、何かあった時すぐに対処していただけることは心強いです。
- ・ 服薬調整を入院中に行っていただけたので、何かあった時に施設では、すぐに対応できないので安心でした。
- ・ 支援介入して下さったお陰で本人自身も楽になったと思います。なので絶対必要だと思います。
- ・ 施設や家族だけではどうにもならないこともあったから。
- ・ 自分の手の内でうまくやりすごせたらとずっとずっと思って過ごしていました(きました)。その行動が強い障害へと形を変えて行ってしまうことに気づいたのが高校生活終最版のころでした。自分(私)の逃げ道かもしれないが入院治療は時には必要と思っております。
- ・ 暴力が減った、笑顔が増えた。

5. 今後も精神科病棟での「強度行動障害への支援・介入」(入院治療)を利用したいと思いますか



【自由記載】

1) ぜひ利用したい

- ・ こだわり行動や行動障害のリセットとして、又家族や施設スタッフのレスパイトとして利用できるとありがたい。
- ・ こちらの生活に慣れてくるとまたこだわり行動など増えてきてしまうのでリセットする意味と必要なら服薬調整もお願いしたい。本人も2度目の入院を悪くは思っていない様子。以前よりも支援の幅が広がりがたと思います。
- ・ これから生活していく上で本人がどのように変わっていくのかまだわからないところもありますのでどうしても不安定になってしまった時にお願いしたいです。
- ・ 施設職員だけでは、やり切れないこともあるので、そんな時は医療の力もお貸しいただけると心強いと思いました。
- ・ 病院のお陰で姉も本来の姉に戻ってくれた気がします。この先もお願い出来ればお願いさせて頂きたいです。

- ・ 次もエントリーしたい。
- ・ 次も利用したい。

2) 条件があれば利用したい

- ・ 不穏時は必要と思った。
- ・ まだ若く先のある子です。本人がこの先過ごして生きていきやすいようになる通過点であれば利用を考えます。

6. ご要望・ご尾希望・困りごとがございましたら自由にお書きください。

【自由記載】

- ・ 医療機関や福祉施設に対しては、
自閉症の特性をふまえたコミュニケーションの支援と配慮の充実。
より一層の病院と福祉分野の連携を希望。
- ・ 困りごととしては、
退院後すぐに元の状態に戻るギャップが毎回必ずあること。
- ・ 地域で生活するにあたり必要な時にちゃんとサービスを利用できるのはなかなかむずかしいです。仕事もサーブしなくてはならないし。今回の入院では先生はじめサポートしてくださるみなさんがとても良くして頂き、私たちの話もよく聞いて下さいました。もっとたくさんの人に理解してほしいと思いますし、受け入れてくれる所が増える事を願います。プログラムに参加して少しでもお役に立てたら光栄です。
- ・ 入院中大変お世話になりました。引き続き今後ともよろしくお願い申し上げます。
- ・ 施設側ももう少し情報共有ができれば良かったなと反省しました。病院の生活と施設の生活を共有し、統一していけたら、また違っていたのかなと感じました。無事に服薬調整を終え、退院することができ、良かったと思います。ありがとうございました。
- ・ この度は本当にありがとうございました。入院した当初は、きっとこのまま姉は壊れていってしまうと思っておりました。先生はじめ病棟の看護師の皆様、OTの方々には親身に接して頂き、感謝してもしきれないです。大変だったと思います。重ねて御礼申し上げます。
- ・ 他にももっとあるといいと思った。
- ・ 短期入所の際は、大変お世話になり、ありがとうございました。親であっても、いまだわからない事ばかりです。1 つ問題が解決すればまた次に悩みはできてきます。皆様に支えられ、助けられ、私も本人も今日があります。機会にそうぐう致しましたらまた助けていただければありがたいです。